

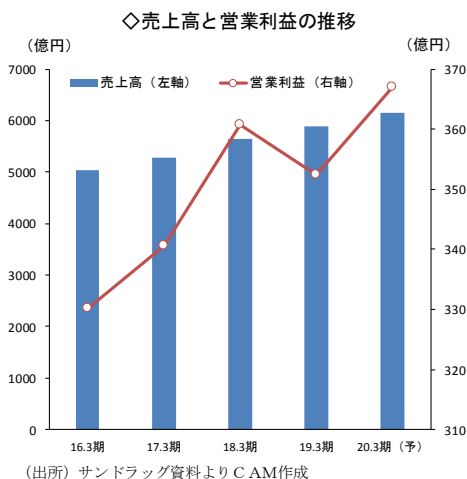
企業ニュース サンドラッグ

(東証1部: 9989) <http://www.sundrug.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

ローコストオペレーションに定評

ドラッグストアのサンドラッグ、ディスカウントストアのダイレックスなどを全国展開している。19.3期のセグメント別売上高構成比は、ドラッグストア64%、ディスカウントストア36%。グループ店舗数は、1,152店(2019年6月末時点)。当社の強みは、業界最大級の物流システムによる安定かつ効率的な商品供給と、ローコストオペレーションである。全店舗、物流、ベンダー(メーカー、卸など)を結ぶ情報オンラインシステムを構築。在庫センターなどと組み合わせることで効率的な配送を行っている。また、同システムで大量の出庫・検品作業を効率的に行うことができ、店舗作業を大幅に軽減してローコストオペレーションを実現している。



第1四半期はディスカウントストアの販売が好調

20.3期・第1四半期(4-6月)の連結業績は、売上高が1,524億円、前年同期比5%増、営業利益が96億円、同8%増。ドラッグストアは、天候不順による夏物季節商材の不振で売上高は同3%増にとどまったが、化粧品など利益率の高い商材の販売を強化し、粗利益率は同0.4ポイント改善した。ディスカウントストアは、医薬品や食品などの販売強化や、積極的な店舗改装などにより売上高は同8%増と好調だった。

20.3期の通期会社計画は、売上高が6,164億円、前期比5%増、営業利益が367億円、同4%増。既存店売上高は同横ばいを計画している。月次報告では、7月は天候要因で前年同月比4%減となったが、8月は同2%増とやや持ち直した。9月は消費税率引き上げ前の駆け込み需要を取り込み、第2四半期(7-9月)の既存店売上高は計画線で推移したと推定される。通期の新規出店はドラッグストアで45店、ディスカウントストアで25店を計画しており、店舗立地の見直しや改装による店舗の活性化も進める。

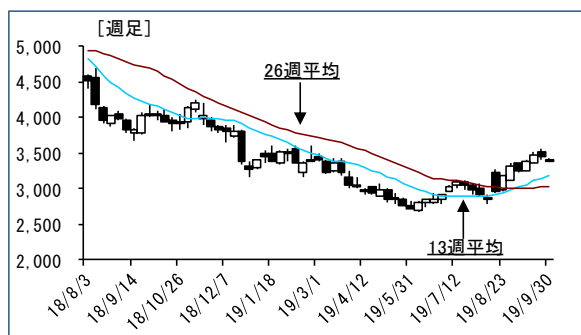
[株価動向・投資判断]

堅調な業績を背景に株価は上昇している。堅調な販売と徹底したコスト管理により、持続的な業績成長が見込まれよう。

<9989 サンドラッグ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	564,215 (7)	36,080 (6)	36,792 (6)	24,829 (7)	212.3	60.00
19.3	588,069 (4)	35,233 (▲2)	35,800 (▲3)	23,933 (▲4)	204.8	66.00
20.3 予	616,400 (5)	36,700 (4)	37,300 (4)	25,000 (5)	213.9	68.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価(2019/9/30)	3,400 円
年初来高値(高値日)	3,605 円(19/2/5)
同 安値(安値日)	2,676 円(19/6/3)
予想 P E R (20.3 予)	15.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,485.7 円
P B R	2.29 倍
予想配当利回り	2.00 %
(1株当たり配当金年68.00円)	
R O E (19.3)	14.7 %
発行済み株式数	11,933 万株